

北海道医歌人会詠草



終焉

愛人に走りてひとり病む老後死期近づけど息子は合わずと
家族の縁うすき老翁を看とりしナースの別れの涙
おじいちゃん 頑張ったよね いいんだよ もう楽にしてお休みなさい
病室で「蛍の光」唄う老女異変の兆とナースどよめく
がん病みて死期の迫れる淋しさに老女は握りし手離さざる

釧路 兎玉 昌彦

梅酒

ベネチアの赤いグラスに氷入れ眠れぬ夜半に梅酒を注ぐ
造りたる梅酒は程良く出来上り住職さんにもそつと手渡す
こまぎれに眠るを友に歎くをば年のせいよと明るく笑う
思いつきり若さで学び遊び働けり米寿を迎えて悔いることなし
精一杯生きる姿は樹々もまた枝先を高く天空に向いて

旭川 稲積 文子

春の始まり

残雪にスノードロップの立ち上がり北国の春が始まらむとす
庭隅にクロッカスの花一輪寂しさもあり希望もあり
住む人の絶えし空地にこの春も露の曇咲く誇るがごとく
窓際の植木に春の兆しありまだ淡色の芽吹き嬉しき
忌まわしいニュースの続くこの時を春の庭見て安らぎを受く

江別 三宅 浩次

運転免許証返還

免許証持つ友に背突かれ漸くに免許への興味兆し初めたる
我が美唄自動車教習所あらざれば砂川までを列車で通う
日を経ずに美唄教習所出来たれば妻も後追う昭和三十六年
名神に高速開通友を誘い伊吹山スカイウェイ征服の快哉叫ぶ
事故とならぬ事故幾度か繰返し運転免許返上の肚くくりたり

札幌 古屋 統

迎春

穏やかな雪少なき正月を無事迎えたり卒寿の年の
賜はりし卒寿祝ひの啓翁桜一度に咲きて床の間の春
續け来し元旦に撮る家族写真顔の揃ひて思ひこみあぐ
年賀状なほ来年も続けやう一言添ふる友ら増え来て
初例会は空知神社に詣でたり卒寿三名居るは嬉しき(美唄ロータリークラブ)

美唄 吉村 誠治

ギンラン

ギンランを養ひ殖やす その基は庭に自から生ひしものなり
手を取りて呼び掛け給へ 醒めずとも声は聞くべし懇ろにしも
二日前回診終わる手を振りつ 今日鬼籍への別れなりしか
春スキー高原に行く無風の日 雪紋に見る黄砂の軌跡
詠むべきをバスの中にて書きつけて 入力するを失念しけり

札幌 浜島 泉